

大野駅・大野病院を核として広がる町並。
左上のまっすぐな道が年貢道路

昭和40年頃の下野上

下野上は今では大熊町の中心的な地区になつてゐる。元禄十年（一六九七年）には二五戸という記録がある。

駅は明治三七年に開設され、町内（当時は大野村、熊町村）をはじめ、都路方面からの利用客も集まつた。特に田村郡方面や官林からの薪・炭・木材・坑木を搬出する貨物列車の運行が盛んで、賑わつたもんです。駅の東側には土場と呼ばれた貯木場があつた。一番賑わつたのは戦

後で、駅を中心に商店がふえていた。旅館もずいぶんあつたし、遊郭のような所もあつたな。学費をつぎ込んだ学生もいたとか。昭和三十一年頃まであつた。今でも「ノンキ屋」と聞いて、若い頃の懐かしい時代を思いおこされる方もおるでしような。

野上原は明治三〇年頃まで官林だつた。焼切られてから松の木が自然に生えて、松林になり、きのこが沢山とれたし、盆花とりもできた。昭和初期に食糧増産のため農兵が来て開墾したが、ここは風が強くて耕地の土が飛ばされて畑にならず失敗した。戦後、一町歩づつ払い下げられた。小塚の堤が出来てからはこの広大な土地を田んぼにすることが出来た。今では反十俵もとれるようになつた。

北向に八幡神社がある。天明の飢饉で逃散した人が多く、困つた相馬藩は移民を募つた。天保十三年頃、富山から六軒が移住して来た。代官や地元の旧家の世話をあつて、原野の開墾に取り組んだ。この頃を六軒荘時代と称し、

下野上の発祥となつた。その時、社も一緒に持つて來たんだろうな。富山には立派な八

ふるさと 再発見 地区めぐり 大熊町を 端から端まで 知りつくそう！

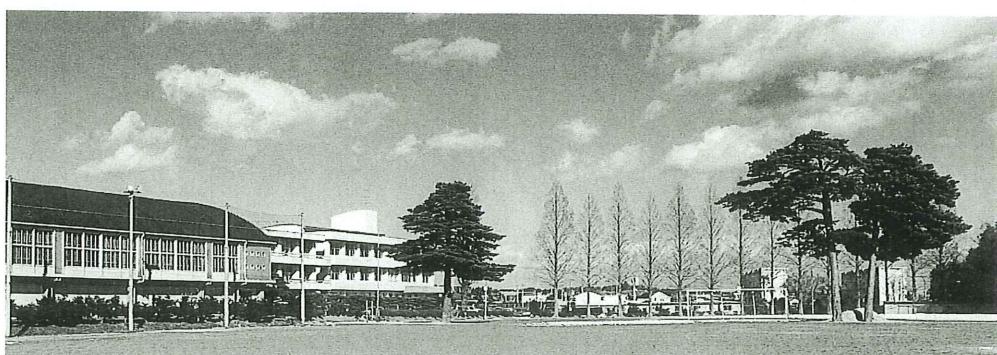
〒979-1308

野上原から大野駅周辺に開けた地区です。

役場・県立病院・公民館・学校・図書館など町の中核を有する地区です。

字名は清水・大野・金谷平・北向・原があります。

今回は町史編纂や「下野上の発祥と発展」など数多くの郷土史の研究を発表されて来られた松本幸一先生にお話を伺いました。



現在の双葉翔陽高校に
残る松林のなごり

● 駅裏通り

大野通運送店の文字が読める。列車の貨物便が全盛だった頃は賑わっていた

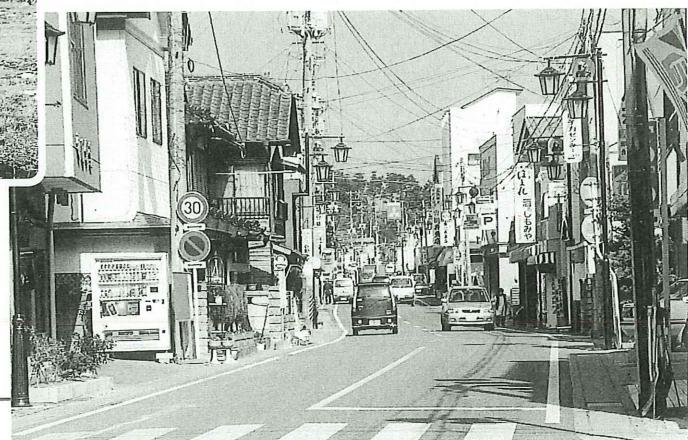
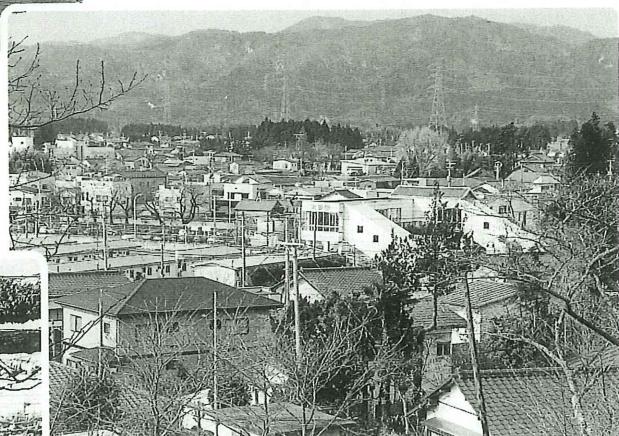


東口へのコンコースがあり便利な駅になった

● 大野駅西口

駅周辺の家並

100 年の歴史を刻む梨の樹。
今もたくさん実をつけています



商店街は駅を中心に賑わった。
昔は年の瀬に「つめ市」が開かれていた



先生の記憶の確かさと豊かなお考えに感動致しました。

私も九十数年生きてきていろいろあつたが、良いことだけ覚えているから、気楽で長生き出来ると思っています。気持ちが年寄りになるから「年寄り」になるんですよ。私もこんな風にいろいろと皆さんのお役に立ててうれしいことと思っています。

現在、梨は町の特産品になっているが、その栽培は約百年前に始まつた。大野駅の新設工事に来て山梨県出身の人が、ここには良い草が生えているので、梨に適していると考え、梨を植えた。現在のようになるとには大変な苦労があつたようです。今でもその一番最初の頃の梨の木が残っているようですが、守っていただきたいですね。

幡様がある。